

★☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

♪ジョイコン NEWS ♪

第54号 (2022年6月)

★☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆
会場を移しての公演再開も次回(7月17日)が第3回目となります。
新型コロナウイルス感染症の影響で、お客様にはご不便をおかけしておりますが、
はやく以前のように演奏をお楽しみ頂けるようお願いしております。

さて、下記演奏会の出演者が決まりましたのでお知らせいたします。
第59回演奏会(2022年11月20日): 都築惇(サクソフォン)
第60回演奏会(2023年1月15日): 黒川侑(ヴァイオリン)
どうぞご期待ください。

それでは、「♪ジョイコン NEWS ♪」(第54号)をお届け致します。

【もくじ】

- 【1】次回コンサートのご案内
 - ◆第57回コンサート
- 【2】今後の予定(先取り情報)
 - ◆第58回コンサート
- 【3】新型コロナの次は戦争…

【1】次回コンサートのご案内(予約受付中)

- ★☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆
- ◇2022年7月17日(日曜日) 14時開演
 - ◇出演: 嘉目真木子(ソプラノ)、高田恵子(ピアノ)
 - ◇プログラム(予定)
 - ◆R. シュトラウス: 「明日!」 Op. 27-4
 - ◆R. シュトラウス: 「献呈」 Op. 10-1、「何も!」 Op. 10-2、「万霊節」 Op. 10-8
 - ◆アイルランド民謡: ダニー・ボーイ
 - ◆イングランド民謡: グリーン・スリーヴス
 - ◆寺島尚彦: さとうきび畑
 - ◆高田三郎: くちなし
 - ◆F. ガスパリーニ: 愛しい絆よ
 - ◆L. アルディーティ: 口づけ
 - ◆C. ドビュッシー: 「ロマンス」 L. 79-1、「鐘」 L. 79-2
 - ◆F. プーランク: 愛の小径
 - ◆A. ヒナステラ: 「忘却の木の歌」 Op. 3-1、「月に寄せる歌」 Op. 3-2
 - ◆W. A. モーツァルト: オペラ『フィガロの結婚』より“愛の日々はどこに”
 - ◆G. ヴェルディ: オペラ『オテロ』より“アヴェ・マリア”
 - ◇料金: 大人・高校生 2,000円、中学生以下 1,000円
 - ◇会場: 横浜市港北公会堂(東急東横線 大倉山駅より徒歩7分)
(会場が変更になっています)

第57回ジョイフルコンサートは
『あなたへ贈る歌～あなたの大切な人は誰ですか…?』
と題して、お届けします。

嘉目真木子さんからメッセージが届いています

長らく延期されていましてジョイコンが今年いよいよ開催されますこと、大変嬉しく
思います。
このプログラムは“人を想う”がテーマです。コロナ禍に入り人との直接的な触れ合
いが減った昨今、人恋しさを感じた方も少なくないのではないのでしょうか。

会いたい時に会えないもどかしさや、ようやく会えた時の喜びを、私達は以前にも増して実感するようになりましたね。
当日は会場で、皆様と1つの“想い”を共有できますことを心から楽しみにしております。(嘉目真木子)

第57回ジョイフルコンサートは嘉目真木子さんのソプラノ独唱演奏です。
コンサートがコロナのため開催できず、嘉目さんにも大変お待ちいただかないといけない状態が続いていました。ようやくコンサートが開催できてとても嬉しく思います。
嘉目さんのメッセージの“人を想う”、とても素敵なテーマですね。
いろいろな思いのこもった演奏になるとと思います。どうぞお楽しみになさってください。

●リヒャルト・シュトラウス：献呈

前回のジョイフルコンサートで黒岩航紀さんがシューマン作曲リスト編曲の「献呈」を演奏してくださいました。
今回はリヒャルト・シュトラウス作曲の「献呈」を嘉目さんが歌ってくださる予定です。そこでこの曲をご紹介しますと思います。

★リヒャルト・シュトラウス

リヒャルト・シュトラウスはドイツの後期ロマン派を代表する作曲家兼指揮者です。
ピアノ練習曲の「クラマー＝ビューロー60の練習曲」を作ったハンス・フォン・ビューローに師事していました。多くの「オペラ、交響詩」を残しています。
ウィンナーワルツで有名なウィーンのヨハン・シュトラウス一族とは血縁関係はありません。

映画「2001年宇宙の旅」のオープニングで使われている「ツァラトゥストラはかく語りき」はリヒャルト・シュトラウスの1896年の作品です。

★献呈

「献呈」はリヒャルト・シュトラウスが出版した「8つの歌」の第1曲です。
ヘルマン・フォン・ギルムの詩に曲をつけたものです。
シュトラウスが21歳の時の作品でとても若い頃に作られたものですね。

元々は「感謝を受けよ」という題名でしたが、シュトラウス自身が「献呈」に変更したそうです。

そう、あなたは知っている、尊い魂よ
あなたから遠く離れて僕が苦しんでいることを
愛は人の心を病ませてしまう
我が感謝を受けよ

かつて放埒な酒飲みだった僕が
アメジストの盃を高く掲げると
あなたはこの飲み物を祝福してくれた
我が感謝を受けよ

そしてあなたはその盃の中の災いを追い払ってくれた
こうして僕は以前の僕ではなくなり
清らかに、清らかにあなたの心に沈みこんだ
我が感謝を受けよ！

歌詞は「僕」が「あなた」に出会って本当の愛に目覚め立ち直っていくというストーリーです。

でも皮肉なことにシュトラウスの妻のソプラノ歌手パウリーネはとても激しい性格で、シュトラウスは恐妻家として知られていたそうです。

彼の作品である「家庭交響曲」の第4部（第4楽章）は子供の教育をめぐる夫婦喧嘩

から和解を表現していて、ヴァイオリンのヒステリックな演奏が正にヒートアップする口論の様子が目に浮かぶようで面白いです。

「献上」は結婚する1、2年前に作られた曲ですが、その後妻の尻に敷かれるようなことになってしまうなんて、シュトラウスは全く思っていなかったのではないのでしょうか？

口うるさいだけではなく、パウリーネはしっかり者の妻であったからこそシュトラウスはたくさんの傑作を作ることができたという説もあります。

他にも何曲かシュトラウスの歌を演奏していただきますので、いろいろ想像しながら演奏を聴くのも楽しいと思います。(A.N)

■ 予約申し込みはこちら

ホームページ：<https://www.ohkurayama-joycon.com/>

予約専用電話：080-8424-5108

【2】今後の予定（先取り情報）

☆☆第58回コンサート☆☆

◇2022年9月18日（日曜日）14時開演

◇出演：小暮浩史（ギター）

◇プログラム（予定）

◆F. ソル：魔笛の主題による変奏曲

◆M. リョベート編：カタロニア民謡曲集より

◆J. S. バッハ：BWV998（プレリュード、フーガとアレグロ）

◆F. タレガ：アルハンブラの思い出

◆A. バリオス：大聖堂（1. 前奏曲 2. 宗教的な祈り 3. 荘重なアレグロ）

◆R. ディアンス：リブラソナチネ（1. インディア 2. ラルゴ 3. フォーコ）

◇予約受付開始：2022年7月18日（月曜日）午前9時より

★プログラム等詳細は順次、本紙面、ウェブサイト、チラシ等でお知らせします。

【3】新型コロナの次は戦争…

ロシアがウクライナへ軍事侵攻を開始して3か月が過ぎました。

ミサイル攻撃などによるウクライナの凄惨な光景を映し出すテレビニュースを見るたび国土が破壊され、罪も無い人々の命が日々奪われている状況は本当に心が痛むばかりです。

新型コロナウイルス感染症の影響が依然としてある中で、今度はロシアのウクライナ軍事侵攻による新たな影響が芸術分野にも出ています。

ドイツを代表するオーケストラの一つ、ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団が、世界的なロシア人指揮者ワレリー・ゲルギエフ氏を首席指揮者から解任しました。ロシア人アーティストの出演をボイコットする事態も起きているそうです。ロシア国内では、侵攻に抗議して著名指揮者が辞任したり、ポリショイ・バレエ団の人気ダンサーが相次いで退団を表明したりしました。ロシアに留学していた日本人も、諦めて帰国、別の留学先を探すなど影響がでているそうです。

さらに、「国際音楽コンクール世界連盟」が「チャイコフスキー国際コンクール」の除名を発表しました。「チャイコフスキー国際コンクール」は、「エリザベート王妃国際音楽コンクール」「ショパン国際ピアノコンクール」とともに世界3大音楽コンクールとされ、4年に1度開催されています。

日本人では過去にヴァイオリン部門で諏訪内晶子さん、神尾真由子さん、ピアノ部門で上原彩子さんが優勝、2019年には藤田真央さんがピアノ部門で2位に入賞しています。

国内でも影響が出ているようです。出演予定だったロシア出身の指揮者や演奏家が来日を断念したり、出演自粛の形で出演者が変更される例もあります。

演目の変更も起きています。例えば、チャイコフスキー（1840～1893）の序曲『1812年』の演奏自粛が広がっているそうです。序曲『1812年』変ホ長調 作品49は、チャイコフスキーが1880年に作曲した演奏会用序曲です。ナポレオン率いるフランス軍の大軍勢がロシアに侵攻したのが1812年で、ロシア軍の反撃にあってフランス軍は惨敗を喫することになります。この侵攻から68年後、チャイコフスキーは祖国の勝利を題材にこの曲を書き上げたことになります。しかし、チャイコフスキー自身はこの曲の依頼を受けた時あまり乗り気ではなかったようで、作曲当時の手紙からも「決して精魂を込めて書き上げた作品とは受け止めてはいなかった」と言われています。

実際、この曲はスペインのバスク地方での戦争（ビトリアの戦い）で、イギリス軍がフランス軍に勝利したことを受けてベートーヴェン（1770～1827）が作曲した『ウェリントンの勝利』作品91と曲の構成がそっくり同じです。序曲『1812年』では、激しいせめぎ合いの情景や進軍ラッパの応酬、それぞれの国歌の旋律が断片となってぶつかり、変奏され、絡み合い、大砲が鳴り、鐘が打ち鳴らされます。「ウェリントンの勝利」で使われているイギリス国歌をロシア国歌に、イギリス民謡をロシア民謡に置き換えただけとの見方もあるくらいです。

ところが、チャイコフスキーの独創性がほとんど感じられないこの曲は、初演から大人気だったようです。今では高く評価されているピアノ協奏曲第1番（1875年）、バレエ「白鳥の湖」（1876年）、ヴァイオリン協奏曲（1878年）は、初演を拒絶されたり評判が散々な結果だったことを比べると大変な違いです。序曲『1812年』は、ロシアの歴史的勝利が題材であったことで、初演から大人気になったと思います。「戦争と音楽」は無関係とは言えない、危うい関係なのかも知れません。（でくのぼう）

【編集後記】

季節の変わり目になると、古傷が痛むとか頭痛、めまい、食欲不振、気分の落ち込みなどの症状が起きることってありますか？
もしかすると、それは「気象病」かも知れません。
気象病は、気圧や気温、湿度など気象の大きな変化によって自律神経が乱れることが原因で起こると考えられています。特に、気圧の変化が大きく関わっているようで、季節の変わり目や梅雨の時期、台風が多い時期などに症状が出やすいようです。日頃から、毎日朝食をとる、日中にウォーキングなどの軽い運動をする、夜は湯船につかるといった生活習慣をつけることも対策になるようです。これから梅雨の季節になります。元気に乗り切っていきましょう。（お）

※このメールマガジンは、大倉山ジョイフルコンサートのアンケート等で「コンサート情報」を希望された方に配信しております。

- 次回予約申し込みはこちら
ホームページ：<https://www.ohkurayama-joycon.com/>
予約専用電話：080-8424-5108
- バックナンバー
メールマガジンのバックナンバー（PDFファイル）はこちら
ホームページ：<https://www.ohkurayama-joycon.com/>
- 配信停止／アドレス変更
メールマガジンの登録、配信停止、アドレス変更はこちら
<mailto:info@ohkurayama-joycon.com>
- メールマガジン♪ジョイコン NEWS♪の感想などお寄せください。
<mailto:info@ohkurayama-joycon.com>

発行：大倉山ジョイフルコンサート実行委員会
Eメール <mailto:info@ohkurayama-joycon.com>
携帯電話 080-8424-5108
URL <https://www.ohkurayama-joycon.com/>